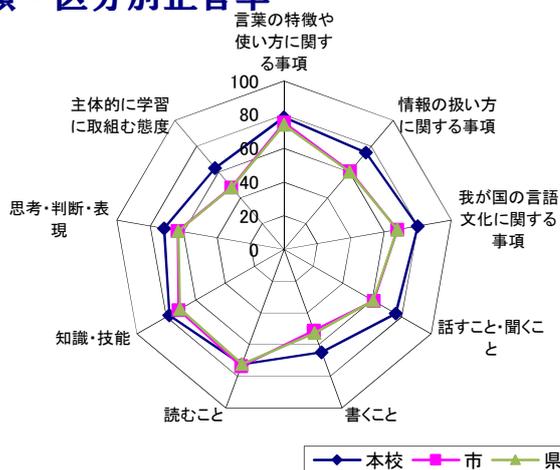


# 宇都宮市立清原北小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	78.5	75.4	74.1
	情報の扱いに関する事項	75.0	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	76.0	61.0	60.7
	書くこと	65.0	51.2	52.8
	読むこと	72.5	73.7	72.4
観点	知識・技能	77.9	71.7	70.6
	思考・判断・表現	71.7	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	63.0	48.2	48.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市・県の平均よりやや高い。 ○漢字の読みの問題の正答率は県とほぼ同じである。漢字の書きについては、送り仮名の未記入で不正解率が20ポイントとなった問題以外は県より約15ポイント正答率が高い。 ●連用修飾語については、県平均とほぼ同じであるが、正答率が25.0%と低い。	・新出漢字を学ぶ際、漢字のもつ意味について話題にしたり、既習の漢字を使った熟語を作らせたりと工夫して指導し、定着を図る。また、送り仮名も含めて漢字練習等で練習させる。 ・修飾語の学習や読み取り問題において、文構造について考えさせる時間をもつ。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら説明する問題については、県平均より29ポイント高い。	・考えを支える根拠や考えのもととなった情報をあげながら、自分の考えを伝える場を設定する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○ことわざの意味を知り、正しく使う問題については、市・県平均より12ポイント高い。	・朝の学習等の時間に多様なことわざにふれ、使い方を知ったり、日常生活の中で活用したりすることにより、言葉への関心を高めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○アンケート調査の結果や話し合いの様子から、意見の続きを考える問題は県平均より29ポイント、話し合いの内容を正しく理解する問題の正答率は、32ポイント高い。	・話し合い活動では、自分の考えと友達の考えを比較しながら聞いたり、友達の意見につなげて、自分の考えを発表したりするなど、意識させることで表現する力を高める。
書くこと	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○段落を意識して指定された長さで文章を書くこと、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことはそれぞれ県の平均より10ポイント以上高い正答率であるが、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」の事実を書く問題については、県の平均とほぼ同じである。	・字数や段落の構成を設定し、条件に合った文章を書く活動を多く取り入れることにより、書く力を身に付けさせる。また、新聞・ポスター制作など、書く活動に取り組む際、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」の事実と、伝えたい内容が相手に伝わるように意識して書かせるようにする。
読むこと	平均正答率は、市・県の平均とほぼ同じである。 ○説明文の内容の中心となる語や文を見つけて要約する問題は、県の平均より5ポイント高い。 ●登場人物の気持ちについて前後の叙述から想像する問題は、県の平均とほぼ同じだが正答率が45%と低く、文章を読んで感じたことを共有する問題については、県の平均より6ポイント低い。	・物語文の登場人物の気持ちの変化を表す言葉や行動に線を引きながら読むなど工夫して内容を捉える活動を充実させる。また、読み取った内容について、考えを共有し、議論する時間を設ける。